

## (8) 中国



中国地域では、景気はこのところやや改善している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

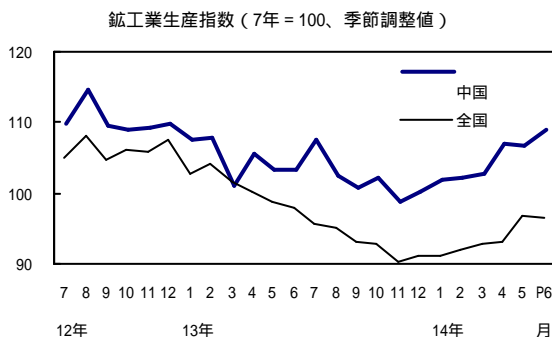
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
総括表現	下げ止まっている	このところやや改善している	
鉱工業生産	増加傾向	増加	
住宅	減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は増加している。

化学は、アジア向け輸出を中心に生産水準を引き上げていることから増加している。一般機械は、半導体製造装置などを中心に増加した。鉄鋼は、輸出や自動車向けの需要の増加などから増加している。電気機械は、輸出の増加や在庫調整が進展したことから、液晶や半導体集積回路を中心に大幅に増加している。自動車は、北米向けの輸出が好調なことに加え、新型車が内外需ともに好調であることから増加している。



(備考) PIは速報値。

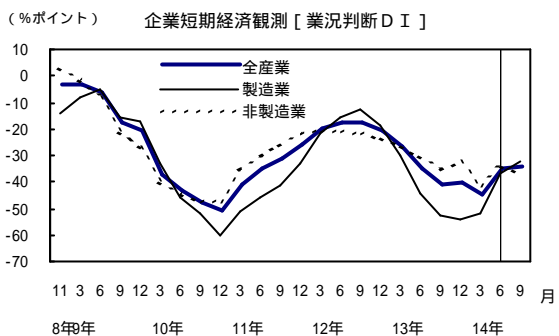
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	16.5	1.9	8.8	6.4	8.0
一般機械	11.5	11.4	4.8	9.4	6.2
鉄鋼	11.4	6.6	6.8	1.7	1.4
電気機械	10.3	21.9	12.6	12.0	20.6
自動車	9.8	4.6	5.3	4.2	20.2
鉱工業	100.0	1.8	5.3	4.1	2.4

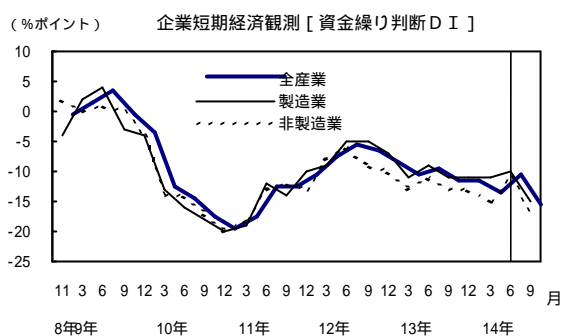
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。

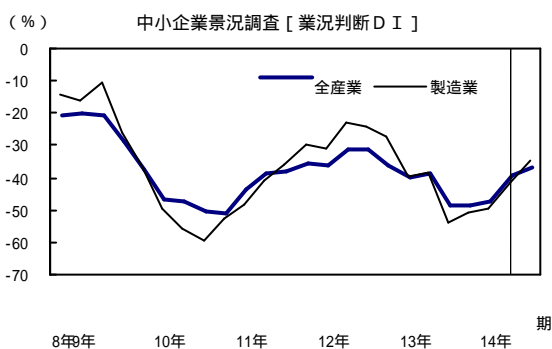
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「取引先の多くで受注が増加しフル操業に近づいているが、単価は厳しく収益は横ばいである(金融業)」  
 など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

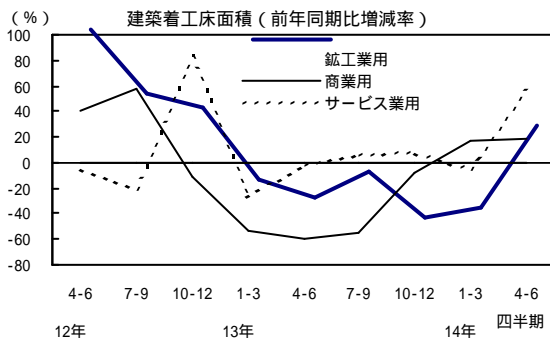
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]  
 (前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	13.9 ( 6.3 )	5.8 ( 0.8 )
製造業	12.9 ( 7.2 )	9.6 ( 4.3 )
非製造業	14.9 ( 5.4 )	2.2 ( 5.1 )

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

( )は前回(3月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

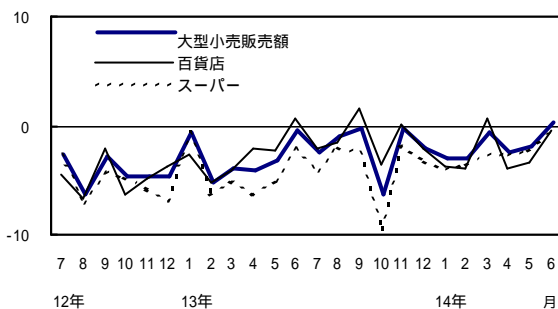
百貨店は、身の回り品には動きがみられたものの、衣料品などが低調であったことから3か月連続で前年を下回った。6月は中元の早期受注が好調で飲食料品に動きがみられ、減少幅は縮小した。

スーパーは、衣料品をはじめほとんどの品目が低調であったことから前年割れが続いている。6月は飲食料品の動きがみられたことから減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「来客数は結構あるが、客単価は相変わらず低調である(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



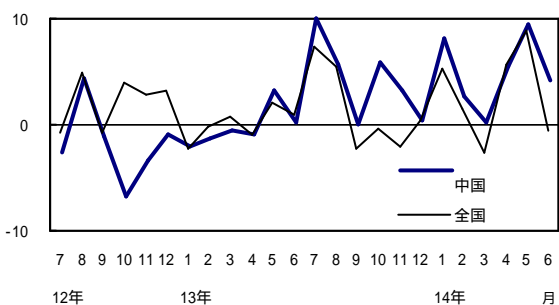
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	2.1	3.6	3.0	2.1
百貨店	0.9	2.0	2.2	2.6
スーパー	2.9	4.7	3.4	1.8
乗用車	3.8	1.7	1.3	4.8
景気ウォッチャー	36.4	34.7	39.2	48.4

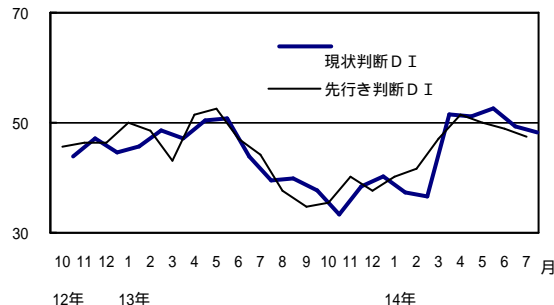
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連D I)



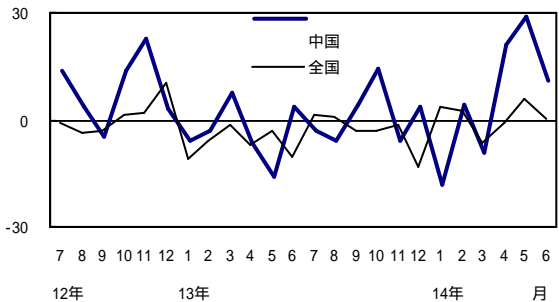
(2) 住宅建設はおおむね横ばいである。

分譲を中心に前年を上回ったが、基調としてはおおむね横ばいである。

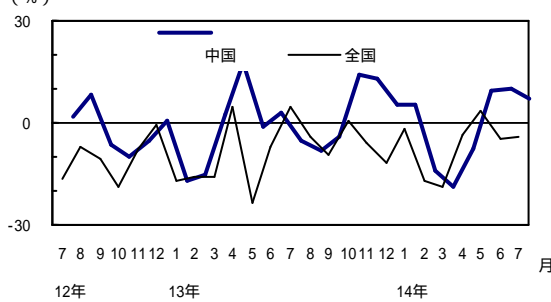
(3) 公共投資は前年を下回っている。

このところ前年を上回っているが、4~6月期では4.1%減少した。

(%) 新設住宅着工戸数(前年同月比増減率)



(%) 公共工事請負金額(前年同月比増減率)

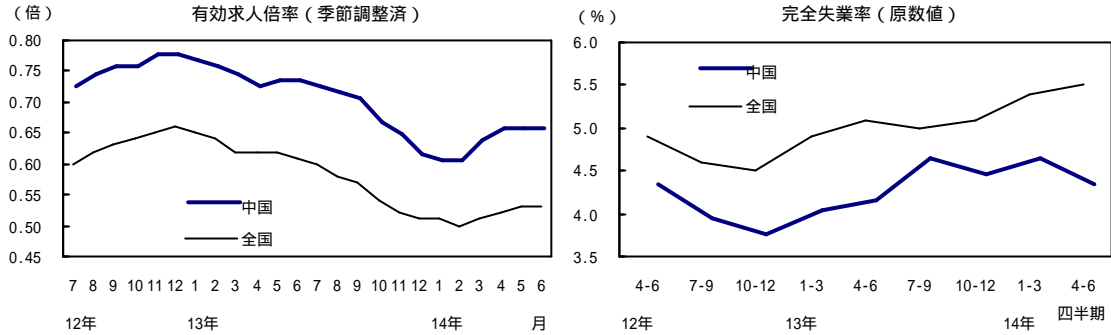


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

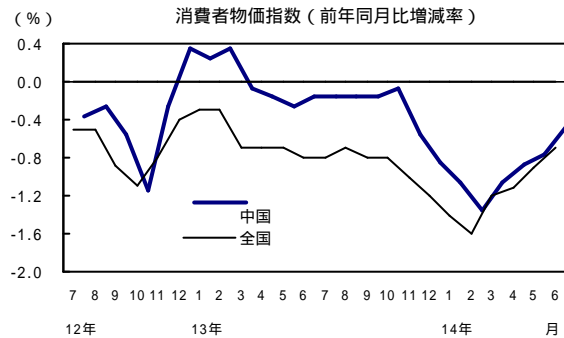
「人材派遣は事務職の需要が低下していることに加えて顧客企業からの値下げ要請が強く、企業のシビアな姿勢が続いている (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数 (前年比)	234 12.7	231 11.5	233 7.9	220 15.1	102 20.0
負債総額 (前年比)	960 84.0	553 50.1	975 44.1	480 28.7	226 55.9



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

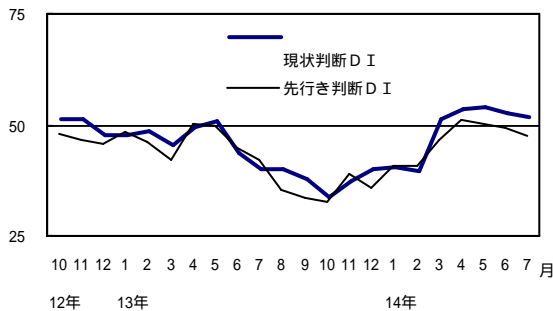
<現状>

- ・販売価格は低迷したままであるものの、受注量、販売量は徐々に回復してきている。ユーザーの動向からも一時のIT不況からは脱しつつある。ただし、これが一時的なものかどうかは全く予想がつかない状況である (非鉄金属製造業)

<先行き>

- ・例年に比べて売上、利益が極端に減少していることから、先行きに不安を感じる (食品製造業)

景気ウォッチャー調査 (合計D I)



## (9) 四国



四国地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

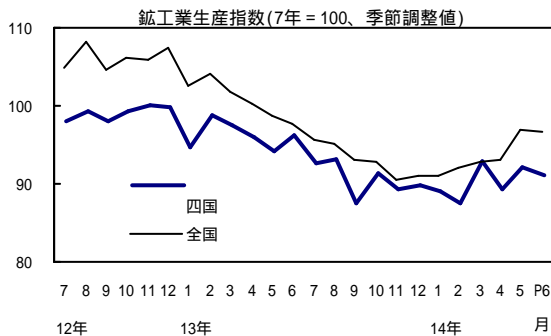
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	このところやや持ち直し	おおむね横ばい	
公共投資	前年を下回っている	前年を上回っている	

## 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電気機械は、半導体集積回路などの持ち直しの動きや、液晶ディスプレイ関連で高操業を継続していることなどから増加している。紙・パルプは、内需の低迷を反映して生産調整の動きがみられるものの、新聞用紙などは安定した操業を続けている。化学は、輸出が堅調であり、在庫調整の進展などもあって増加している。食料品・たばこは、冷凍食品などの需要が堅調でおおむね横ばいとなっている。一般機械は、建設機械などは低調であるが、自動車向けベアリングの需要回復などもあって増加した。



(備考) Pは速報値。

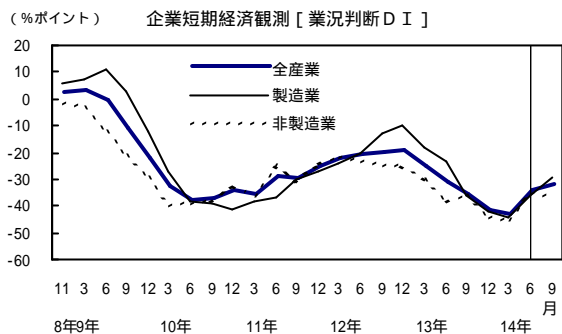
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期		
電気機械	13.1	6.3	6.1	6.1	47.9		
紙・パルプ	12.4	0.7	1.9	2.4	3.1		
化学	11.8	8.4	2.6	0.7	6.8		
食料品・たばこ	11.4	0.6	0.5	1.9	2.9		
一般機械	11.3	7.7	5.8	6.6	0.4		
鉱工業	100.0	0.5	1.3	1.3	8.0		

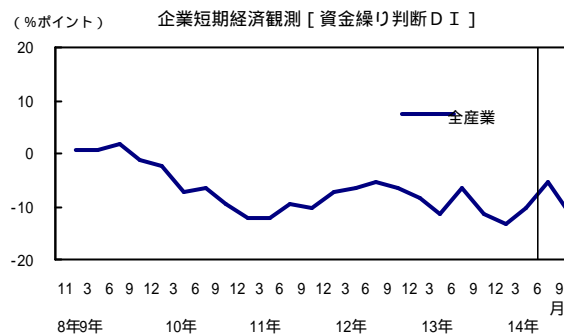
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期おと前報値。

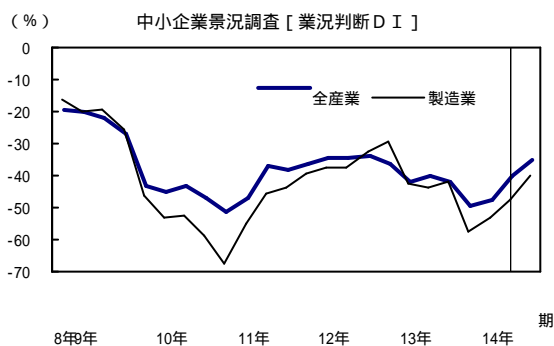
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「従来の商品は、前年の実績に達していない。新しい商品でカバーしている (パルプ・紙・紙加工品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

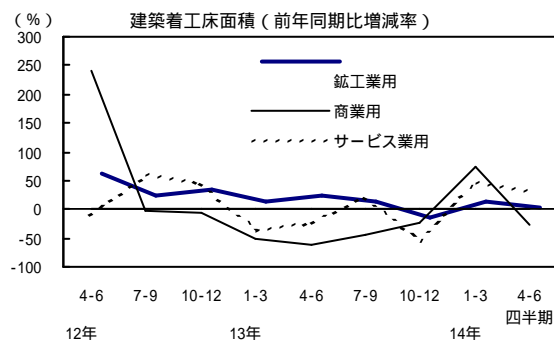
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績		14年度計画	
全産業	6.9	8.2	17.2	16.5
製造業	11.8	4.3	30.1	22.1
非製造業	16.7	15.5	8.1	12.4

(備考) [ ]は前回(3月)調査結果。



## 2. 需要の動向

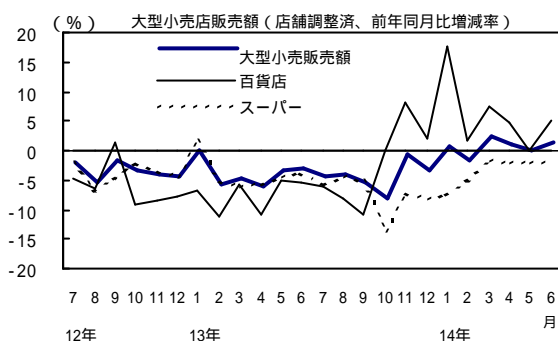
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、増床やリニューアル効果による婦人雑貨や海外ブランド品が好調で前年を上回った。また、6月は夏物セールの前倒しで夏物衣料に動きがみられたほか、中元の早期受注が好調であった。スーパーは、増床や営業時間の延長により飲食料品が堅調であったものの、消費者の節約志向や低価格傾向に加え、天候不順で夏物衣料が不振であったことなどから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「来客数の伸びが鈍く、売上に影響している。また、暑さが予想以上でなく、夏の主力商品の飲料やアイスクリームの売上が良くない（スーパー）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

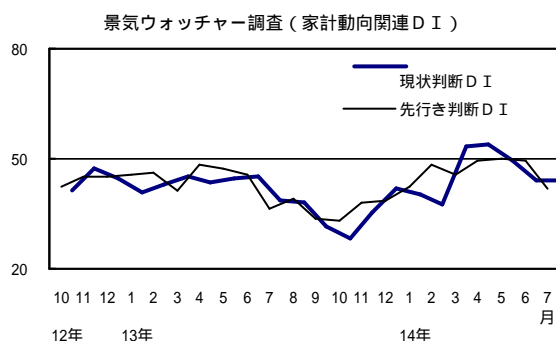
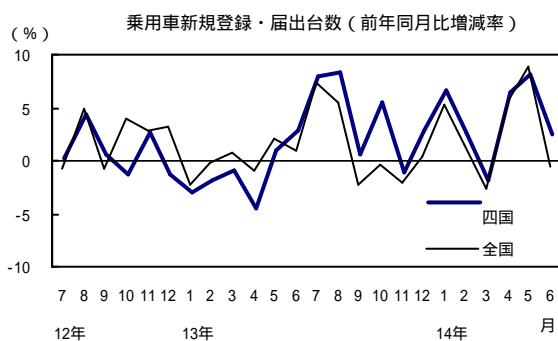


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	6.0	5.5	0.9	0.6
百貨店	8.1	3.2	9.3	3.2
スーパー	5.1	9.5	4.9	2.0
乗用車	4.0	0.9	0.1	4.0
景気ウォッチャー	32.1	31.3	39.8	45.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

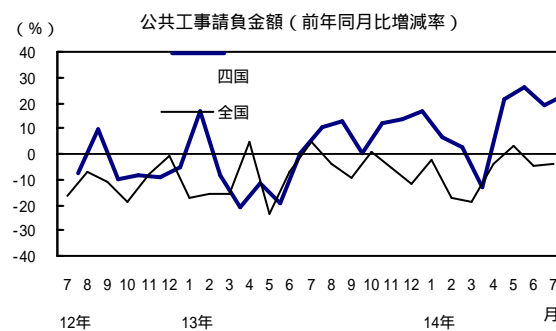
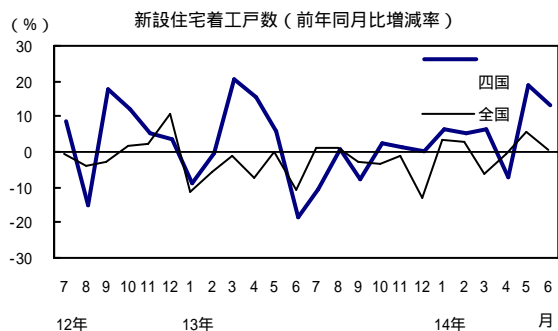
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家と貸家により前年を上回ったものの、基調としては緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を上回っている。

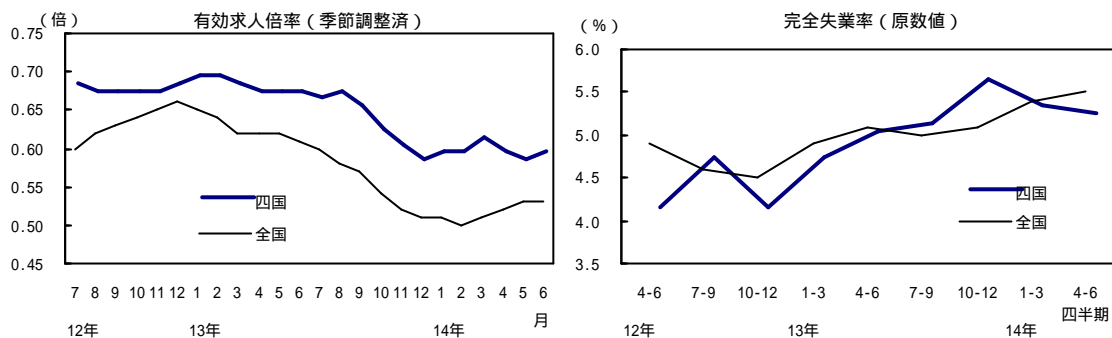


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

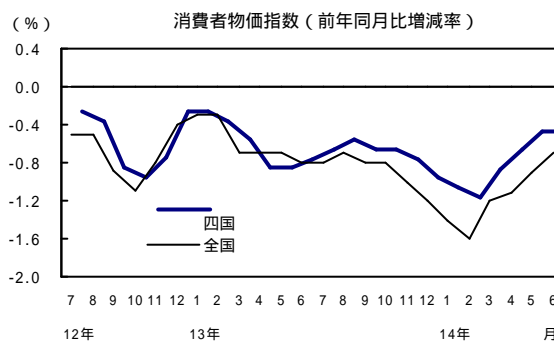
「一般求職者の増加が著しい。求人は低水準で、増加する傾向がみられない (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数	119	157	170	147	52
(前年比)	19.0	10.6	29.8	16.7	79.3
負債総額	511	915	844	377	161
(前年比)	51.3	136.3	0.6	30.2	9.9



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

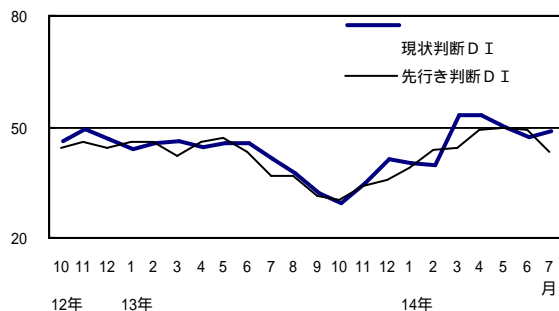
<現状>

・特に中途採用の求人に関しては、積極的な企業が増えている。採用したいと思うだけで、行動に移っていない経営者が多い (求人情報誌製作会社)。

<先行き>

・秋物の動きに変化が無く、非常に厳しい。夏物のバーゲンでは秋物の動向が見受けられるが、今年は、秋物の動向も弱く、3か月先の実売が非常に不安である (百貨店)。

景気ウォッチャー調査 (合計D I)





## (10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 公共投資は前年を上回っている。

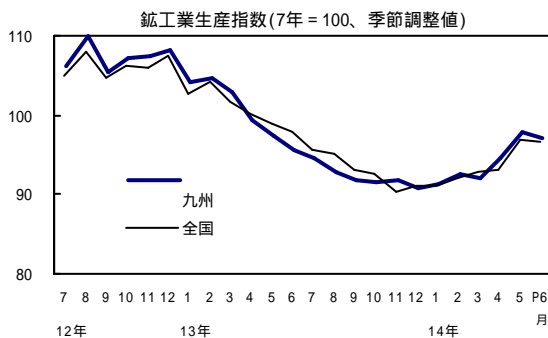
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年5月）	今回（平成14年8月）
総括表現	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向
公共投資	前年を下回っている	前年を上回っている
住宅建設	減少	おおむね横ばい
雇用情勢	さらに厳しさを増している	依然として厳しい

## 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

電気機械は、集積回路が在庫調整の進展や輸出の回復により、生産数量で16か月ぶりに前年を上回ったことなどから、全体でも大幅に増加している。食料品・たばこは、焼酎を中心に総じて堅調に推移している。化学は、輸出の増加を背景に減産を緩和しており、記録メディアなどの需要も好調であることから増加した。輸送機械は、自動車の北米向け輸出が依然として好調である。



(備考) PIは速報値。

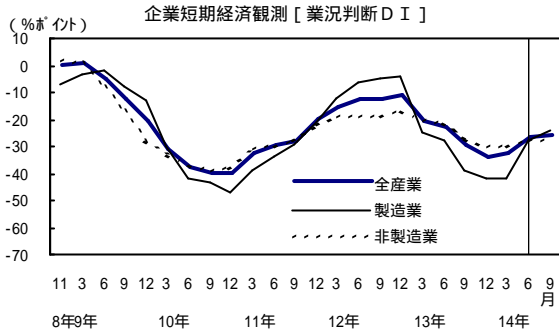
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電気機械	18.6	11.0	18.7	19.3	14.4
食料品・たばこ	10.8	1.9	2.7	0.6	7.3
化学	10.2	3.9	2.4	0.5	12.6
一般機械	10.2	2.4	5.1	7.5	1.5
輸送機械	9.5	3.7	8.0	8.1	30.5
鉱工業	100.0	0.7	5.0	5.1	6.6

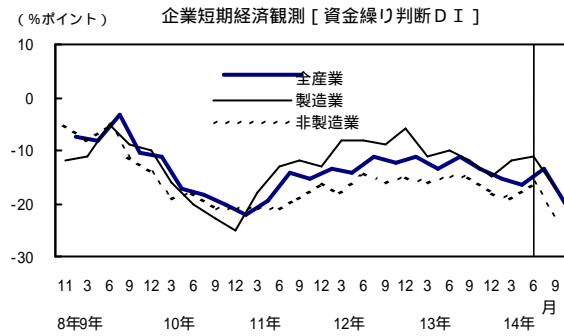
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期は速報値。

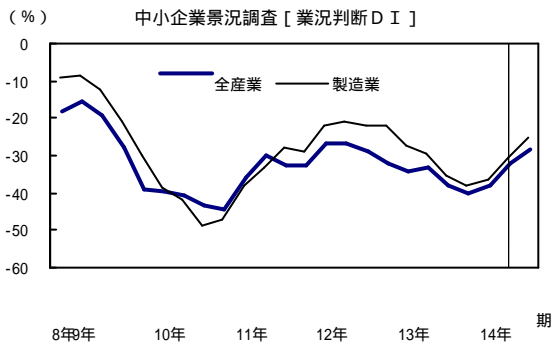
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「半導体はここ2、3か月は非常に好調だったが、これから先の受注の活力が陰っている (電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

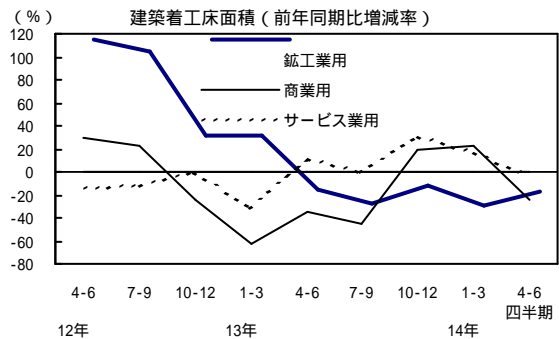
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	11.6 ( 2.2)	4.7 ( 0.1)
製造業	27.7 ( 1.3)	6.0 ( 7.2)
非製造業	3.4 ( 2.5)	8.8 ( 3.1)

(備考) ( )は前回 (3月) 調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

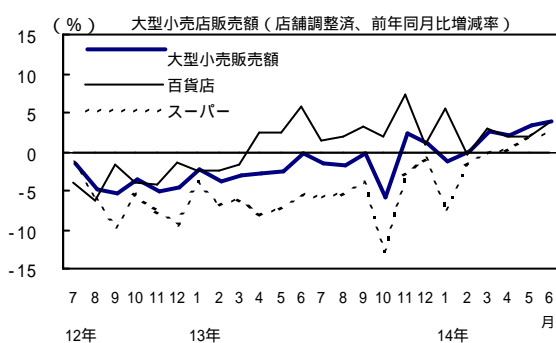
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、リニューアルや催事の効果により4か月連続で前年を上回った。商品別にみると、紳士服・洋品などの動きが鈍かったものの、婦人服や身の回り品を中心に動きがみられた。

スーパーは、飲食料品では惣菜などに動きがみられ、衣料品では婦人服や身の回り品に動きがみられたことから前年を上回った。ただし、全店舗では4～6月期10.8%減と大手スーパーの店舗閉鎖の影響がみられる。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「土日ごとのイベントによる集客は効果があったが、売上にはつながっていない(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

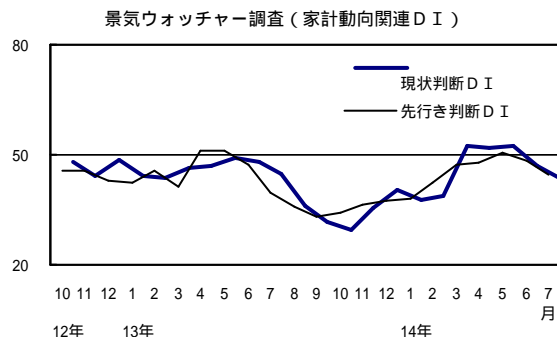
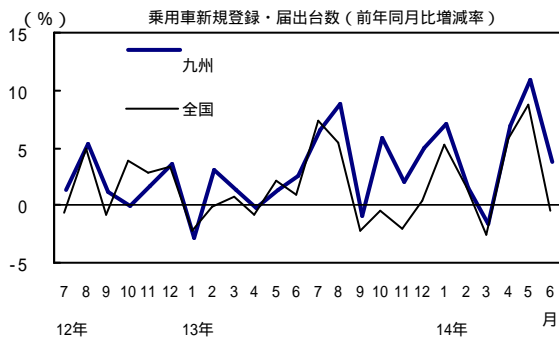


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	2.3	1.8	0.8	2.0
百貨店	2.1	2.9	2.9	2.5
スーパー	5.1	5.2	3.5	1.5
乗用車	3.1	2.9	0.0	5.6
景気ウォッチャー	33.6	31.1	39.0	46.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

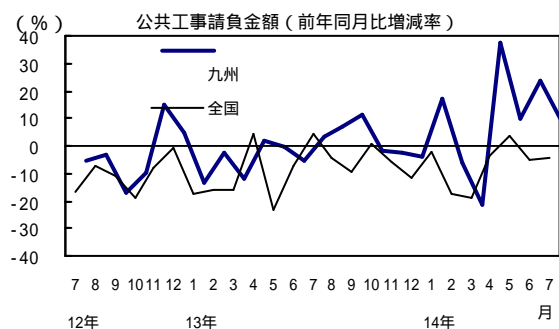
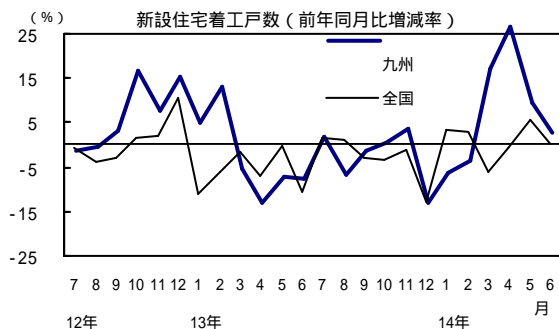
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲を中心に前年を上回っているものの、基調としてはおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は前年を上回っている。

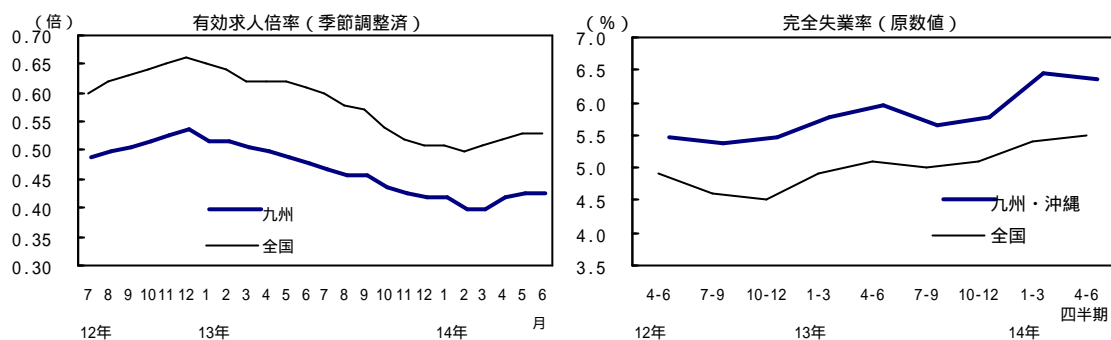


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断)]

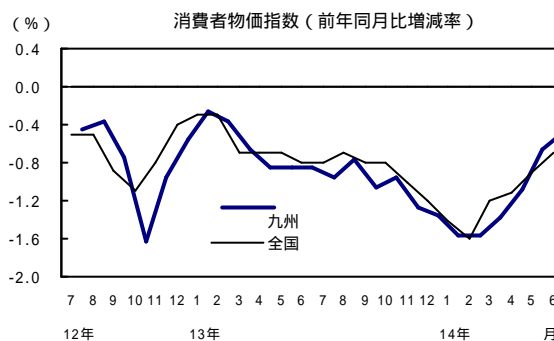
「半導体の求人が一段落して、その他の求人の内容が固定的なものになっている (新聞社 [求人広告])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数 (前年比)	471 11.3	523 18.6	411 0.7	422 0.2	134 11.8
負債総額 (前年比)	1,939 18.9	4,949 340.1	1,403 71.2	3,178 192.6	525 17.0



景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

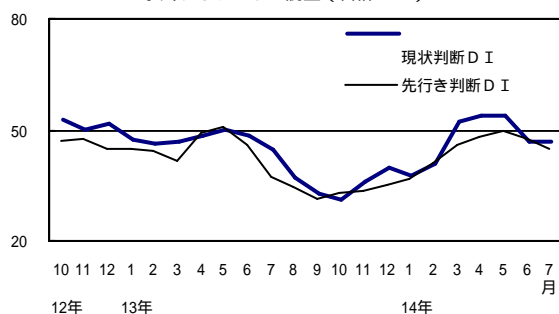
<現状>

・大手企業が右肩上がりですと成長すると思われたが、この3か月間は横ばいで先が見えない状態である。その都度その都度の発注で、安定した状況は保てていない (電気機械器具製造業)

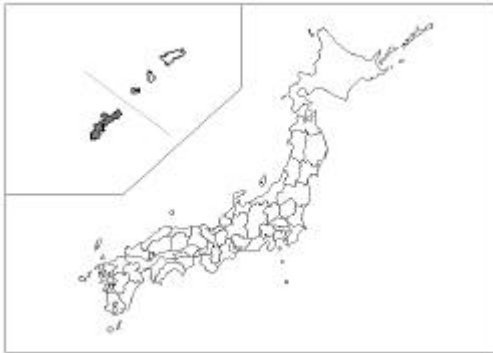
<先行き>

・イベントを行っても盛り上がりには欠け、また消費者の消費に対するシビアな姿勢は変わらない (商店街)

景気ウォッチャー調査 (合計DI)



## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 観光は増加傾向である。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 住宅建設は緩やかに減少している。

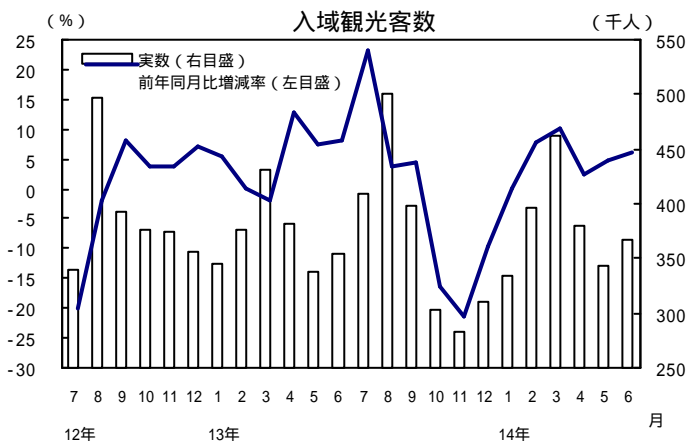
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 14 年 5 月）	今回（平成 14 年 8 月）	
総括表現	このところやや改善している	持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	おおむね横ばい	緩やかに減少	
公共投資	前年を下回っている	前年を大幅に下回っている	

## 1. 生産及び企業動向

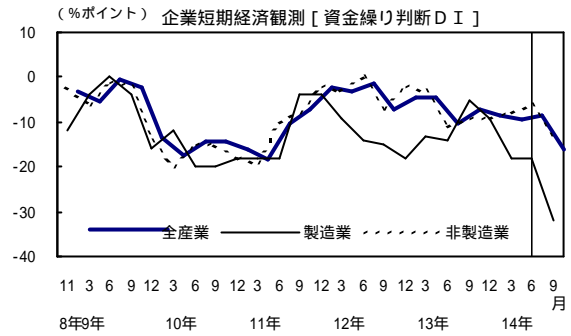
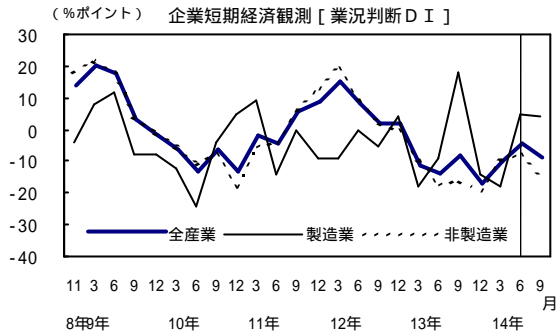
(1) 観光は増加傾向である。

入域観光客数は、4月は前年比で0.5%減と単月では過去最高を記録した前年並みの実績であった。台湾からのクルーズ船が非常に好調であることに加え、各種キャンペーンの効果などにより、5月は1.8%増、6月3.2%増と2か月連続で増加し、5、6月の入域観光客数は各月の過去最高を記録した。また、主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに高水準の稼働が続いている。



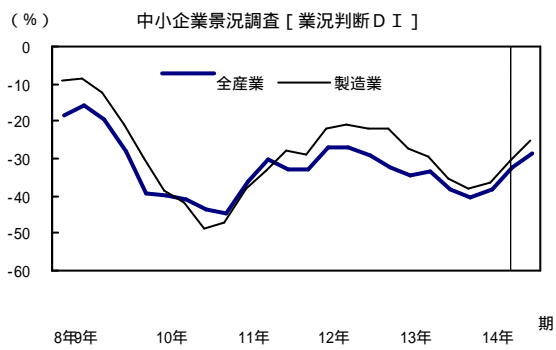
(備考) 入域観光客数は中縄県観光リゾート局調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいである。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。  
 九州地区のDI。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「中元シーズンで物量は予想していた程ではないが増加している (輸送業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を大幅に上回っている。

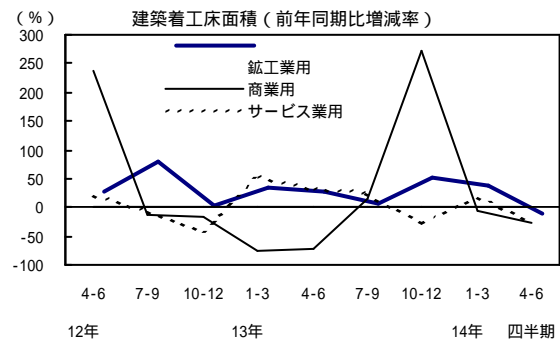
14年度計画は、製造業では、食料品を中心に前年度を下回るものの、非製造業では、大型小売で前年度を上回る計画となっており、全産業で前年度実績を大幅に上回る見通しとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	4.8 ( 6.3 )	25.2 ( 5.6 )
製造業	32.0 ( 1.4 )	15.3 ( 2.2 )
非製造業	0.6 ( 7.2 )	30.6 ( 6.4 )

(備考) ( ) は前回 (3月) 調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

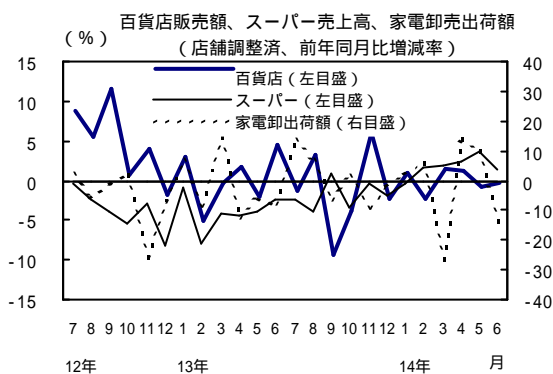
百貨店は、紳士服(かりゆしウェア)は堅調に推移したものの、主力の婦人服が低調であったことにより、4~6月期ではやや前年を下回った。

スーパーは、好天による夏物衣料や飲料の好調に加え、食料品で営業時間延長の効果がみられたことから、4~6月期は2期連続で前年を上回った。全店ベースでの増加も続いている。

家電は、エアコン、DVDが好調に推移していることに加え、大型テレビやBS・CSチューナー等がサッカーワールドカップ開催に伴う需要により増加し、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

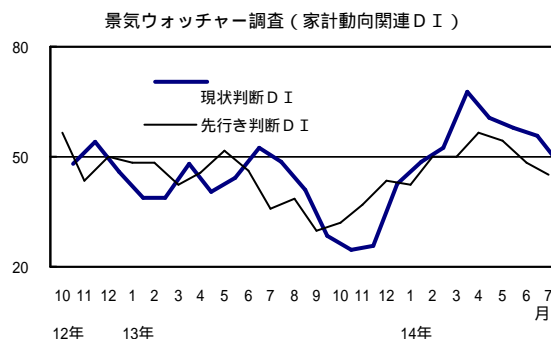
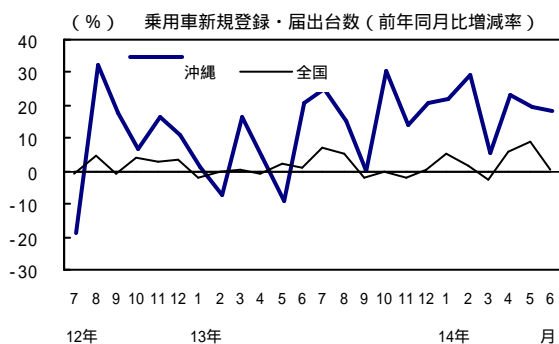
「需要は低価格車、小型車に集中している(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同月比増減率、単位: %)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
百貨店	3.4	1.4	0.8	1.0
スーパー	2.0	2.0	1.0	2.5
家電卸出荷	5.3	3.2	10.3	1.1
乗用車	9.0	16.5	10.3	15.7
景気ウォッチャー	35.3	26.9	52.1	53.9

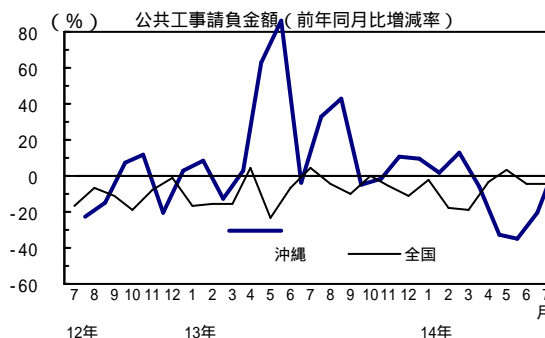
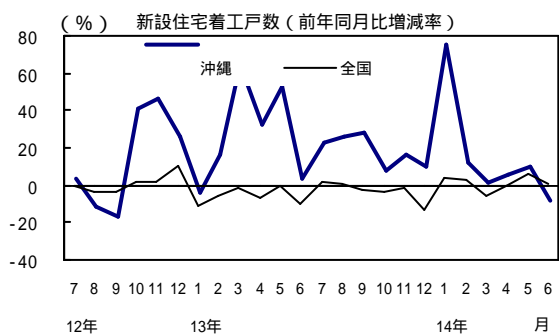
(備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は中銀銀行調べ。  
2. スーパー売上高は日本銀行別荘支店調べ、店舗調整済。  
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家では前年を上回ったものの、このところ続いていた貸家の増加が一巡し、全体では緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を大幅に下回っている。

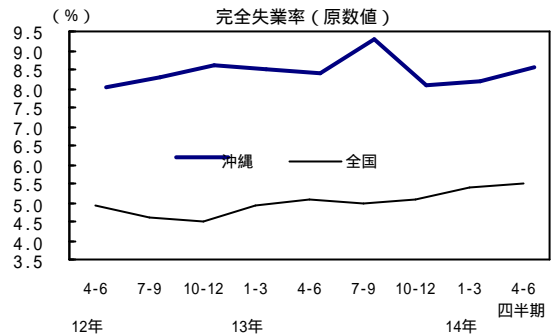
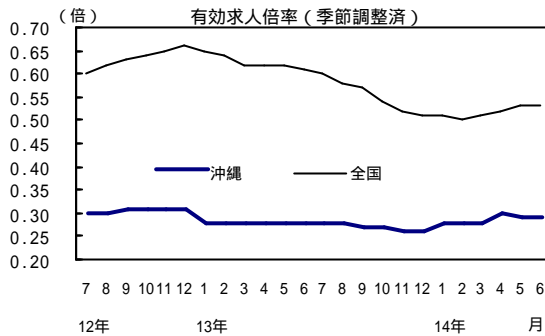


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、横ばいで推移し、完全失業率は、前年同期を上回っている。



(備考) 失業率は、沖縄県企画開発総務課「労働力調査」より。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

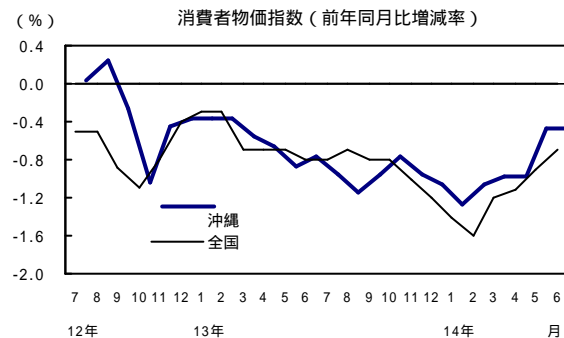
「県外就職が増加しているが、県内就職の求人状況に変化はない(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数	35	30	28	26	19
(前年比)	10.3	16.7	0.0	13.3	46.2
負債総額	148	73	71	56	20
(前年比)	68.4	20.6	17.6	77.3	5.8



景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・サッカーワールドカップの後に立て続けに来た台風の影響により来客数が減少し、生鮮物の価格が上昇するなどの状況もあって、厳しい営業内容が続いている(その他飲食[居酒屋])。

<先行き>

・レンタカー会社の状況があまり良くないとの声が聞かれることから、レンタカー会社への今後の販売増が見込めない。また、このままだと9月以降にレンタカー抹消の数の増加が見込まれ、中古車マーケットシェアが拡大するなど、新車の購買にも影響が出る(乗用車販売店)。

